

手すり 玄関編 知ってる人は 得をする?!

よっころしょ

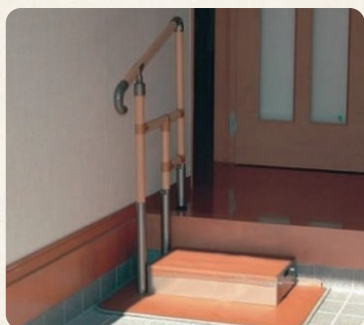
介護用品
だより

段差の大きい玄関は昇降しにくく危険です。
手すりを使う事で安全・安心に生活できます。

レンタル

介護認定をお持ちの方は
月額**¥400**からレンタル可能。

注:形状により料金が異なります



玄関の昇り降り、
立ち座り等で
お困りではないですか？

住宅改修

介護認定をお持ちの方は1割、もしくは**2割負担**にて施工可能。
一人あたり**20万円**までのサービスが受けられます。



▶ 施工後



手すり施工例

6万円の工事の場合、
1割負担…6,000円
2割負担…12,000円
負担割合は

【介護保険負担割合証】を
確認してください。

お問い合わせ 介護ショップKPG TEL:072-260-3077

薬のちょっと困った作用(副作用)に関する情報をこのコーナーで紹介します。

クスリスク

k u s u r i s k ③



光線過敏症のお話です

今年はかなりの猛暑でしたね。涼しくなってきたとはいえ、まだ暑い日もあります。みなさんは紫外線対策をされていますか。紫外線による日焼けはある程度以上の紫外線量が当たれば、誰にでも起こりますが、それとは別に、外用薬の使用後や内服薬の服用後に紫外線が当たって炎症を起こしてしまう光線過敏症についてお話しします。

光線過敏症とは、皮膚に残った薬の成分に日光が反応し、赤くなる、ぶつぶつができる、腫れて水ぶくれができる、かゆくなるなどの皮膚症状を引き起こすものです。

光線過敏症の原因となる薬剤は多くの種類があります。抗生剤のクラビット(レボフロキサシン)、脂質異常症治療剤のリポバス(シンバスタチン)、利尿剤のラシックス(フロセミド)、アレルギー症状を抑えるニポラジン(メキタジン)、痛み止めの湿布のモーラステープ(ケトプロフェンテープ、パテルテープ)などが挙げられます。同じような痛み止めの湿布でも光線過敏症を起こしやすいものと起こしにくいものがあります。例えば、ロキソニンテープは光線過敏症を起こしにくいと言われていきます。スポーツや仕事などで長時間日光に当

たる機会の多い方にはこのような光線過敏症が起こりにくい薬剤を医師に検討してもらう方がいいでしょう。

治療では薬剤を中止し、患部に直射日光が当たるのを避けます。塗り薬としてはステロイド外用薬を使ったり、かゆみが強い場合にはアレルギー症状を抑える薬を内服します。さらに症状が強いとステロイド剤の内服や注射をすることもあります。紫外線が患部に当たるとひどくなることもあるので、症状がおさまった後も紫外線から皮膚を守ることが重要です。

光線過敏症を起こしやすい湿布は剥がしたからといって、油断してはいけません。しばらく経ってから、剥がした部位が光線過敏症になることがあります。剥がしたあと少なくとも1ヶ月くらいは、貼っていた部位に直射日光に当たらないように注意してください。予防には濃い色の長袖や長ズボン、サポーターで皮膚を覆うようにしたり、日焼け止めの使用も有効です。外出時だけでなく、窓ガラスを通した日光にもさらさないよう注意が必要です。今回お話に出た薬剤は一部ですので、原因のわからない湿疹やかゆみなどの症状が現れた場合は、早めに受診し、適切な診断や治療を受けることが大切です。